

サーヤーハー エーエン ヤレ  
水の都は 大阪の 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ 昔 大阪は 浪花と云いな、  
八百八橋の その中にナ  
長い 長い 長柄橋ナ

長柄の 渡しの 物語りナ  
大きな 雨の その後にナ

水が あふれて いくら橋をば 架けましても  
たちまち 橋が 押し流さーれて  
ハ皆 人々 ワイナイ 困りはてて

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ

神社へ お願したところ 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ 生きながらーに 人を埋めいな

そう云う お告げが 出ましたワイナ  
お告げが 出たのは 良いけれどーも

それでは 誰おば 人柱ーに  
埋めたら 良いかを 考えましたが

埋めたら 良いかを 考えましたーが  
埋めたら 良いかを 考えましたーが  
ハなかなーか 話 がイナイ 決まりません

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ

今の吹田市 垂水町 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ その頃 垂水の里と 云いナイ

ケチの イワジと 云う人 ガイナ  
他人の ものは 自分の ものと

つめの あかでも 出しおしむイナ  
ハ金を しこたまイナイ 貯めこんでいた

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ

皆で 相談 していたところ 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ そのとき ちようど 通りかかる

イワジは 工事が はかどらないと  
いつも 無駄な 渡し賃をば

取られる 事に 腹をたてイナ

たかが 橋をば 架けるくらいで  
何を そんなに ひま取つてると  
ハ役人の たまり場へと 立ち寄つて

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ

厭味 たづぷり 云うたなら 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ 工事の費用が 少ないのんや

人夫の 少ないのんと ちがいますイナ  
神社の お告げの 人柱の

人を選ぶのに 困つておるわ  
それを聞いたる イワジーガイナ

ハそんな 簡単なイ 事かいなーと

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ

それなら 長者の 考えを 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ 妙案も へチマも いらんワイナ

はかまに 白い 継ぎがあるイナ  
貧しそなる 者をば オイナ

長柄の 橋の 人柱ーに  
すれば 良いかと 云うたそうな

云うた イワジの はかまにワイナ  
継ぎが 当たつて 貧しそなる

かっこを しててでは ないかあイナ  
それを 見つけて 皆みなガイナ

いやがる イワジを 捕まえてイナ  
長柄の 橋の人柱ーに

ハかわい そうに モイナイ 埋められた

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ

それから どんな 大雨にも 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ 橋が 流されず 人々ワイナ

イワジと 云う人に 感謝してイナ  
東 淀川区の 大願寺に

冥福祈つて 碑を建て まーした  
ハ今も イワジのイナイ 碑が残つてる

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ  
イワジの 娘の 嫁ぎ先 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ 河内の国は かいだのオイチ  
長者に 嫁いだ イワジの娘

父が 埋めらーれて それ以来ーナ  
誰とも 口を 聞かなくなつて

とうとう 実家へ 帰されるイナ  
娘の 一行が かいだのオイチ

村を 出まして 淀川オイチ  
渡つて 垂水の里 近くへ

ハ帰り きましタイナイ その時に

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ

一羽の キジが ひと声高く 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ 鳴いて 飛びたつ そのときにーナ

娘の 夫が 弓矢でイナ  
射落とし ましたる その時にーナ

それまで 娘は 一言もイナ  
口を開かずに いましたガイナ

ハ突然 声をバイナイ 張り上げて

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ

悲しそーおに 妻ガイナ 掛け声(ソラ エン ヤトセ)  
イヤ 云うた 言葉が なお悲しいワイナ

ものイワジー 父は 長柄の 人柱イナ  
鳴かずば キジも 射られざらまし

うたを 詠んだる 姿みてイナ  
夫は 初めて わが妻のイナ

口を きかなかつた そのわけワイナ  
胸の内が よくわかりイナ

かいだの 里へと 連れもどりナ  
ふうふ 仲よく 暮した トイナ

長柄の 橋の 人柱ーの  
ハ物語りーを バイナイ 打ち止める

掛け声(ソラヨローイヤ・ヨローイサ・ヨローイヤラセ)

中島音頭 目蓮尊者

サーヤーハー エーエン ヤレ  
踊り 音頭のエー 由来を 尋ぬればイナ  
三千年のー その昔 掛け声(ソラ エーヤトセ)  
イヤ 祇園精舎の 七千余巻の 経文のイナ  
アご聖経おの 成るナエ その中に

掛け声(ソラ ヨーイヤ・ヨーイサ・ヨイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ  
アご聖経おの その中に 掛け声(ソラ エーヤトセ)  
イヤ りんずだいちの 目蓮尊者の 母親ガイナ  
欲しや 可愛の 罪ゆえにナア  
ア地獄うで 苦しみ ナエ 受けたまう

掛け声(ソラ ヨーイヤ・ヨーイサ・ヨイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ  
目蓮尊者と 云う人はサーヤーハー エーエン ヤレ  
イヤ 母の 行方を 尋ねんトイナ  
二百 十億の お浄土をイナ  
尋ね 巡れど ござらぬトイナ  
いつ百 三十六 地獄イナ  
ア尋ね 巡れエ バイナエ 餓鬼道で

掛け声(ソラ ヨーイヤ・ヨーイサ・ヨイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ  
餓鬼 餓渴の 苦しみを 掛け声(ソラ エーヤトセ)  
イヤ 母人様 なげゆえに  
この様な 苦しみ 受け給うイナ  
目蓮尊者よ 目蓮尊者よ  
苦しいわイナ 苦しいわイナ  
水が 有るなら 飲ましてたもれ  
飲めば 八万四千の 毛の穴よりも  
ア火炎と なりてガイナエ 燃えあがる

掛け声(ソラ ヨーイヤ・ヨーイサ・ヨイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ  
目蓮尊者と 云う人は 掛け声(ソラ エーヤトセ)  
イヤ この苦しみを ご覧になりて  
釈迦の みもとへ 起ちかえり  
孟蘭盆 経おを 詠み給うイナ  
七月 中旬 十五日ナア  
あ天上に 生まれてナエ 仏成る

掛け声(ソラ ヨーイヤ・ヨーイサ・ヨイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ  
仏 一人 もうけたと 掛け声(ソラ エーヤトセ)  
イヤ蓮の 葉を 頭に 乗せて 手を上げてイナ  
唐も 日本も 天竺もイナ  
公いさんも ばあさんもイナエ 出て踊れ

掛け声(ソラ ヨーイヤ・ヨーイサ・ヨイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ  
極楽浄土は 莊嚴の 掛け声(ソラ エーヤトセ)  
イヤ金の柱に 銀の壁イナ  
銀の柱に 金の壁イナ  
しゅぼ 樹林の 花ざかりイナ  
花の光の その中にナア  
ア鳥が 止まりてナエ 法華経読む

掛け声(ソラ ヨーイヤ・ヨーイサ・ヨイヤラセ)

サーヤーハー エーエン ヤレ  
瑠璃の大地に 瑠璃の庭 掛け声(ソラ エーヤトセ)  
イヤ八巧や 徳水 満ち満ちにナア  
ハ五色の 蓮華がナアエ 咲き分ける 掛け声(ソラ エーヤトセ)

掛け声(ソラ ヨーイヤ・ヨーイサ・ヨイヤラセ)

サーヤーハー 目蓮尊者の お話は 掛け声(ソラ エーヤトセ)  
イヤ 踊り音頭の由来なりナ  
又のご鼻 願いおきイナ  
ア 二つで 止め置く したいなり

掛け声(ソラ ヨーイヤ・ヨーイサ・ヨイヤラセ)